

今週のビルマのニュース 2009年1月30日号【0904号】

今週の主なニュース：ガンバリ氏がビルマを訪問へ

・国連のガンバリ事務総長特別顧問が31日から4日間の日程でビルマを訪問することが明らかになった。アウンサンスーチー氏が書記長を務める国民民主連盟(NLD)によれば、氏がガンバリ氏と会う可能性もある(29日付イラワディ誌)。民主化勢力の間で特使の訪問に対する期待は低い。

その他：国全体で600万人に食糧援助が必要、ほか

・1990年総選挙で当選した議員らがダブリンで総会を開き、亡命政権のビルマ連邦国民連合政府(NCGUB)の首相に現職のセインウィン氏を再選した。同じく現職の3人に加え新たに3人が大臣となり、大臣は合計7人になった(26日付DVB)。

・ビルマの通貨チャットが闇レートで3年ぶりの高値となる1ドル約1000チャットにまで上がった。原因としてはタイやインドとの国境貿易の低迷、外国からの投資額の増加やサイクロン関連援助資金の送金などがあるとされる(26日付イラワディ誌)。

・サイクロンの被害が大きかったイラワジデルタ地域で、漁業や農業などに従事する15歳以下の子どもが増えていると現地の民間団体筋が述べた。大人より低賃金なわりによく働くため雇用主も好んで雇うという(23日付イラワディ誌)。また国連世界食糧計画(WFP)は、サイクロン被災地域を含むビルマ全体で600万人が食糧援助を必要としていると報告した。軍政が課す諸制限のため、ビルマ西部のロヒンギャ民族やチン民族居住地域など援助機関が入れない地域もある(28日付BBCニュース)。

・27日にタイ沖で拘束されたロヒンギャ民族78人のうち未成年の12人について国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)が面会することをタイ政府が認めた。健康状態などは良いとのこと。残り66人は不法入国で有罪判決を受けた(29日付AFPほか)。

ビルマへの政府開発援助(ODA)約束状況など

〔無償資金協力〕

1月23日 サイクロン被災地域の貧困農民支援(国連食糧農業機関を通して)2億円限度

〔草の根・人間の安全保障無償資金協力〕

1月21日
バゴー管区 健康センター建設 約717万円
イラワジ管区 僧院学校建設 約787万円

1月23日

サイクロン被災地域の学校修復・再建(複数)約9840万円

イベントなど

・在日ビルマ人共同行動実行委員会アクション - 国連事務総長に対し、一刻も早くビルマを訪問し、スーチーさんを含むすべての政治囚の釈放と対話の促進を軍政に働きかけるよう要請するアピール行動(国連大学前、26~30日15~16時)

・BS世界のドキュメンタリー「大洪水に襲われた村~ミャンマー・デルタ地帯~」(NHKBS1、2月1日10時10分~)

・難民の第三国定住に関するシンポジウム 外務省主催(三田共用会議所、2月5日13時半)*要申込

・第62回ビルマ連邦記念日祝典 ビルマのさまざまな民族の文化、音楽、舞踊の披露(南大塚ホール、2月8日13時~)

・ミャンマーの伝統系あやつり「ヨウッター・ポエー」~シリーズアジアの人形芝居 part14~王族から庶民にまで広く愛されたミャンマーの華麗なる伝統芸能 7年ぶりの来日公演 現代人形劇センター主催(川崎・東京、2月7~11日)*チケット発売中

・ビルマ市民フォーラム例会 外国人労働者は今...在日ビルマ人・外国人労働者のおかれている状況について(池袋・ECOとしま8階、2月21日18時~)

春秋社より新刊のお知らせ~アラン・クレメンツ著「ダルマ・ライフ - 日々の生活に"自由"を見つける方法」。著者はビルマで得度して僧になった初めての米国人。国際的な注目を集めるビルマの状況に対して、新たな角度から光をあてる一冊。四六判/372頁/定価(本体2500円+税)

もっと詳しい情報は

きょうのビルマのニュース(平日毎日更新)
<http://d.hatena.ne.jp/burmainfo>

ビルマ情報ネットワーク
<http://www.burmainfo.org>

お問い合わせ

ビルマ情報ネットワーク 秋元由紀
yuki@burmainfo.org 080-2006-0165